

# TPP協定による本県農林水産業への影響⑩<漁業>

## 山形県における漁獲量10位までの魚種とTPPの関係

	①するめいか	②まだら	③たい類	④べにずわい	⑤はたはた	⑥ぶり・いなだ	⑦さけ・ます	⑧いわがき	⑨ほっこくあかえび	⑩さわら
漁獲量(トン)	2,540	439	428	397	343	226	221	138	121	97
生産額(百万円)	800	132	280	56	104	38	74	83	135	85
現行関税率(%)	生鮮・冷凍 5%	生鮮10% 冷凍6%	生鮮・冷凍 2%	生鮮・冷凍 4%	生鮮・冷凍 3.5%	生鮮・冷凍 10%	生鮮・冷凍 3.5%	生鮮・冷凍 7%	生鮮・冷凍 1%	生鮮・冷凍 3.5%
撤廃時期	段階的に11年目	生鮮:段階的に11年目 冷凍:即時	即時	即時	即時	段階的に11年目	さけ:段階的に6年目 ます:段階的に11年目	即時	即時	段階的に11年目
現在の輸入単価(円/kg)	137	292	-	-	-	-	410	-	1,246(エビ類)	-

## 上記魚種のうち、影響が懸念される3魚種の分析

### するめいかのマーケットイメージ(H25をベースに整理)

〔輸入するめいか量〕 〔国内マーケット内訳〕 〔国内産するめいか内訳〕

〔国内〕 〔県内〕

中華人民共和国 31,522t (51%)  
ペルー 14,276t (23%)  
チリ 7,410t (14%)  
その他 8,707t (14%)

輸入量 61,914t  
輸入金額 191億円

国産するめいか 130,379t (シェア67.8%)  
285円/kg

輸入スルメイカ 61,914t (シェア32.2%) 309円/kg

交渉参加国関係

鮮魚 シェア 75.5% (98,436t)  
冷凍 シェア 80.1% (2,034t)

鮮魚 シェア 19.9% (506t)  
冷凍 シェア 80.1% (2,034t)

6割加工  
3割解凍鮮魚  
1割餌

冷凍 シェア 24.5% (31,943t)

国内産生産量 130,379t  
国内産生産額 514億円

県内産生産量 2,540t  
県内生産額 8.0億円

《輸入品と県産品の比較》

するめいかの輸入相手国のうち輸入量が多いTPP交渉参加国は、ペルー及びチリ。両国からの輸入のほとんどは冷凍品であり、高品質の県産するめいかとは直接的には競合しないと考えられる。

	輸入スルメイカ	本県産スルメイカ
単価	137円/kg	315円/kg
利用形態	加工品用 (乾燥・薫製・調味珍味加工、塩辛・焼き物、フライ、天ぷら、和え物、漬物、すり身等惣菜やスナック菓子、冷凍食品、レトルト、カップ麺の具材等)	生鮮44%・加工品48%・餌8% ※加工品は、一夜干し、塩辛の原料として利用されており、輸入スルメイカの用途とは異なっている。
マーケット	加工品用	加工品用、家庭用、業務用

### まだらのマーケットイメージ(H25をベースに整理)

〔輸入まだら量〕 〔国内マーケット内訳〕 〔国内産まだら内訳〕

〔国内〕 〔県内〕

アメリカ 18,891t  
シェア 86% (冷凍)

ロシア 2,844t (13%)  
その他 231t (1%)

輸入量 21,967t  
輸入金額 68億円

国産まだら 63,236t (シェア74.2%)  
163円/kg

輸入まだら 21,968t (シェア25.8%) 312円/kg

交渉参加国関係

生鮮・加工のシェアは不明 (63,236t)  
163円/kg

生鮮 シェア 100% (439t)  
302円/kg

国内産生産量 63,236t  
国内産生産額 103.1億円

県内産生産量 439t  
県内生産額 1.32億円

《輸入品と県産品の比較》

まだらの輸入相手国のうち輸入量が多いTPP交渉参加国は、アメリカ。加工用の冷凍品として輸入しており、生鮮100%の県産とは直接的には競合しないと考えられる。

	輸入マダラ	本県産マダラ
単価	297円/kg	302円/kg
利用形態	加工品用 (すり身、かまぼこ、乾物、塩蔵)	鮮魚 ※ほとんどが鮮魚、わずかがフィレに利用されるのみ
マーケット	加工品用	家庭用、業務用

### さけ・ます類のマーケットイメージ(H25をベースに整理)

〔輸入さけ・ます類〕 〔国内マーケット内訳〕 〔国内産さけ・ます内訳〕

〔国内〕 〔県内〕

その他 10,440t (5%)  
ロシア 28,958t (12%)  
ノルウェー 36,133t (15%)

チリ 163,306t (68%)

輸入量計 238,800t  
輸入金額計 1,550億円

輸入 さけ・ます類 238,800t (シェア58.4%)

国産 さけ・ます類 169,858t (シェア41.6%)

交渉参加国関係

さけ類 シェア 94.7% (160,902t)  
さけ類 シェア 98.6% (218t)

ます類 シェア 5.3% (8,956t)  
ます類 シェア 1.4% (3t)

国内産生産量 169,858t  
国内産生産額 722億円

県内産生産量 221t  
県内生産額 0.74億円

《輸入品と県産品の比較》

さけ・ます類の輸入相手国のうち輸入量が多いTPP交渉参加国はチリ。輸入品目は脂がのっている養殖ギンザケの冷凍品が多く、あっさりしている県産シロザケとは、価格帯が異なり、利用形態も住み分けられていると考えられる。

	輸入冷凍ギンザケ	県産シロザケ
特徴	養殖物、脂がのっている	天然物、あっさりしている
単価	410円/kg	311円/kg
利用形態	刺身、塩蔵品	生サケ(調理用)、塩蔵品
マーケット	加工用、家庭用、業務用	加工用、家庭用、業務用

## 関税撤廃の影響イメージ

### 畜肉の関税の引き下げにより、魚から肉へのシフトが進み、魚離れに拍車がかかることが懸念される

本県の主要魚種	するめいか (TPP交渉参加国からの輸入実績あり)	輸入品が既に3割を占める中、安価な輸入品に引っ張られてするめいか全体の価格の低下が懸念される。しかし、県産するめいかは鮮度もよく、高品質の生鮮品として取り扱われており、安価な加工用向けの輸入品と住み分けができてきていることから、これまでどおりのマーケットで推移し影響は小さいと考えられる。
	まだら (同上)	輸入量が占める割合は約1/4であるが、まだらは世界各地で消費され、その需要が逼迫基調にある中で、輸入量の急増は発生しにくいと考えられる。また、輸入まだらは加工用として利用されていることから、これまでどおりのマーケットで推移し影響は小さいと考えられる。
	さけ・ます類 (同上)	輸入品が国内流通の半分以上を占めているため、チリ産のギンザケの価格低下に伴い、サケ全体の価格低下が懸念されるが、チリ産ギンザケと県産シロザケでは、価格・利用形態が異なり直接の影響は小さいと考えられる。
	ほっこくあかえび(紅えび) (同上)	エビ類はTPP交渉参加国中ベトナムからの輸入が全輸入量の18%を占めるが、現在の関税率が1~2%と低いため、影響は小さいと考えられる。
	べにずわい (輸入実績なし)	かに類全体では、TPP交渉参加国ではないロシアからの輸入が圧倒的に多い。カナダから若干の輸入があるが、輸入品はたらばがに等の高価格のものが多く、低価格のべにずわいと競合しないと考えられる。

※ たい類、はたはた、いわがき、さわらについては、鮮度(鮮魚)が最優先されるため、外国からの輸入実績がない。  
※ ベトナム向けのブリ・イナダの輸出機会拡大が期待される。